

## Step and a step ～君だけのペースで～

栗原 宏 介

奨励者紹介〔くりばら・こうすけ〕  
日本キリスト教団岡本教会牧師  
光の園幼稚園チャプレン  
同志社大学神学部嘱託講師

「これらの小さな者を一人でも軽んじないように気をつけなさい。言っておくが、彼らの天使たちは天でいつもわたしの天の父の御顔を仰いでいるのである。†あなたがたはどう思うか。ある人が羊を百匹持って、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか。はっきり言っておくが、もし、それを見つけたら、迷わずにいた九十九匹より、その一匹のことを喜ぶだろう。そのように、これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない。」

(マタイによる福音書 18章 10—14節)

### 関わり合いが制限される中で

「Step and a step～君だけのペースで～」というタイトルをつけました。これは私が関わっている、昨年夏に行われたキャンプのテーマでした。すでにお気づきの方もいるかと思いますが、このタイトルは NiziU の楽曲からのものです。楽曲としては1年ほど前に発表されていますから、テーマとしてここであげるにはちょっと遅れているというのが私の感覚ですが、このワードには普遍性があり、今に響く言葉であるから流行るのだろうとも思います。だから今テーマにしても全然遅くありません、と自己弁護しておきます。

さて、今私たちはとても困難な時を過ごしています。このコロナ禍で、人との交流が難しくなっているのです。私の働く教会や幼稚園でも、多くの制限がある中、皆で知恵を出し合い、工夫しながら活動しています。私の幼稚園もそうですが、この同志社大学でも、教育環境を保つためにさまざまな工夫がなされています。そうした制限された状況の中で他者との交わりがとても大切なことに気づかされます。失って、制限されて気づくことがあります。他者との関わりもその一つでしょう。その大切な「人と人との関わり合い」が制限されることによって「他者」の存在が強く意識され、同時に意識された他者との比較によって「自分」という存在が浮き彫りになっていきます。そこで意識が向きやすいのが「自分が持っているもの」よりも「自分に無いもの」であり、「自分ができること」よりも「自分にはできないこと」であると思います。隣の芝生は青く見えるのです。青いどころか光り輝いて見えてしまいます。なんだか羨ましく思ったり、劣等感を抱いたり、しんどさを感じたり。人との関わりが制限されているのに(いや、制限されているからこそ)、その関係性に苦しんでいるのです。

また同時に「関係性」に関わることで、私たちが苦しめているものに「同調圧力」があります。他者への意識と社会全体の空気感を背景として、相手のペースに合わせたり、皆と一緒にであろうとしたりする同化への圧力（同調圧力）が日常にまで浸透しています。それがじわじわと私たちの深層へと染み渡り、疲れを覚え、しんどくなっていくのです。

### 君だけのペースで

このような「隣の芝生の青さ」や「同調圧力」からくる悩みや苦しみを抱く時、NiziUの歌詞が心に響きます。「Step and a step 私の歩幅で Step and a step 私だけのペースで ゆっくり行ってもいい 休んでみてもいい 歩いていく 自分らしく Just believe yourself」という歌詞は、今を生きる私たちに力を与えてくれます。他者と同じであることに安心感を覚える私たちです。他者との違いに不安を抱く私たちです。そのような時に「君だけのペースでいいんだよ」とのメッセージは力強く響き、豊かな励ましとなります。

このNiziUから発信されるメッセージは、実は遙か昔にイエス・キリストをとおして語られていたことでもありました。「あなたは大切な存在」「あなたのペースで歩んでいる時に一緒に歩んでくれる存在がいるんだよ」「自分が迷い出た時に、探し出してくれる方がいる」とのメッセージです。NiziUの歌詞には“Just believe yourself”（ただあなたを信じて）とありました。聖書では「自分を信じる」その前に“Believe in your God”との言葉が加えられます。「共にいてくださる神を信じよう!」とのメッセージです。なぜ自分を信じる（愛する）ことができるのか。それは、共にいてくださる神があなたを愛しているから、ということになります。

### 迷い出た羊

そのあたりのことをイエスのたとえ話から見いきましょう。迷い出た羊のたとえです。神は、百匹の羊の集団から迷い出た一匹の羊を探しに出かける方です。そして見つけたら心から喜んでくださる方です。百匹の集団を一つの存在とは見ていません。ただ数字だけを見て損得勘定をする方ではありません。つまり私たちは数字を見て、そこにある出来事や個人の存在を軽んじて、事象や存在を一括りにしてしまいます。しかし、イエスは個々の存在を軽視しませんし、軽視するあり方に警鐘を鳴らします。

この箇所を読んで皆さんはどう思われたでしょうか。私は「残された九十九匹はたまったものではない」と思いました。いつ狼がやってくるかもしれないし、次は自分が迷い出してしまうかもしれない。「できる羊飼い」ならまずは九十九匹を安全なところ（元の場所、本来帰るべき場所）に連れて行ってから、余った時間でいなくなった一匹を探しに行けと思います。実はこんなこと、語り手のイエスはよくわかっています。それは「ある人が羊を百匹持っていて、その一匹が迷い出たとすれば、九十九匹を山に残しておいて、迷い出た一匹を捜しに行かないだろうか」との一文から見て取れます。このように問いかける意図は何かということです。当時の常識として、「できる羊飼い」ではなく、ごく普通の一般的な羊飼いで、九十九匹を山に置いていくなんてことはしないというのが当たり前のことだったからです。この社会常識を想起させておいて、常識を覆す話を展開することによってインパクトを強くするという技術をイエスは用いています。固定観念を破り、新しい発想へと転換するということです。逆に言えば、この場合「一匹は後回

しにされる」という常識を前提としたうえでの問題提起であり、それを印象付けるために九十九匹が残されたのです。

それによって私たちの本質が浮き彫りになります。この「九十九匹はたまったものではない」という発想は、自分自身が「九十九匹」（多数）の側に身を置いていることを象徴しています。自分が迷い出た一匹であること（迷い出た一匹となること）への想像力を欠いています。九十九匹には他に九十八匹の仲間がいます。一匹は一匹のままです。不安であることには変わりないかもしれませんが、一匹の不安は一匹が抱えなければなりませんし、共有したり助けを求めたりする相手もいません。皆さんは社会の中であって、いつこの一匹になってもおかしくない存在です。この一匹になってしまった時に「九十九匹の方が大事なんだ!」「一匹は後に回せ!」となればどうでしょうか。自分の言葉が自分へと返ってきます。謙虚に自身を見つめなさいというメッセージがここには含まれています。残念ながらイエスが活動していた当時も、私たちが生きる「今」も基本的に状況は変わっていません。九十九匹が大事ですし、九十九匹を優先するのは当たり前です。それが悪いとは言いません。それによって生かされる命が多くあるのは事実です。しかし、それだけでいいのか、というのがここでの問題提起です。実はこれはキリスト教という一宗教の話のみならず、民主主義や資本主義の根幹の部分でもあります。普遍性を帯びた物語です。

あなたが迷い出た時、それでも多くのリスクを負いながら見つけてくれる存在があるということをイエスは伝えたいのだと思います。「大丈夫、あなたは一人ではない」と。これは新島襄の「一人一人は大切なり」との言葉の根底にあるものでもあります。あなたは1/100の存在ではなく1/1のかけがえのない存在なのです。

そのようにして神は百匹を「大切な一匹」の集合体とみえています。一匹一匹をそれぞれに大切な存在とみえています。他者と比べ、さまざまな悩みを抱え、痛みを覚える迷い出た私を「大切な一人」として顧みてくださるのが主イエスです。

集団から外れる、迷い出る、人と違う、相手のペースが気になる。そんな時に「あなたは大切な存在なんだよ」と主イエスは語ります。「君だけのペースでいいんだよ」「私もあなたのペースと一緒に歩いて行くよ」と語ります。

このコロナ禍で、私たちは悩み疲れています。でもそんな時こそ「一緒に歩いてくださる存在」に気がつくことができたらいいなと思います。あなたは大切な存在! Step and a step 君だけのペースで行きましょう!

〔注〕

1 『Step and a step』 作詞 J. Y. Park “The Asiansoul” 他 作曲 J. Y. Park “The Asiansoul” Epic Record Japan 2020年12月

2022年1月12日 今出川水曜チャペル・アワー「奨励」記録